



大学ボランティアセンター 職員セミナー2024

オンライン
Zoom開催

なぜ「共に」？どう「共に」を創るか？

長らく続いた新型コロナウイルスの流行も収束し、外出や仲間同士でのおしゃべりも制限なく行えるようになりました。ボランティア活動もコロナ前と同様に行えるようになった一方で、一人でボランティア活動に参加したり、仲間と想いや経験を分かち合わない学生が増えているように感じます。また、グループ活動で困ったことがあっても、メンバーたちに相談したり、お願いしたりすることに躊躇して、一人で色々なことを抱え込んでしまう学生リーダーも多いようです。

今回のセミナーでは、このような他者と共に活動することに意味を見出さない学生や、他者と関わることをあきらめてしまう学生たちに、私たちはどのように関わるのか、他者と共に活動することの意義や価値を、学生たちとどう共有していくのかについて、共に考えたいと思います。

開催日

9/12(木) 9:30~12:30
13(金) 13:30~17:00

定員

各日40名程度

対象

大学ボランティアセンター、サービスラーニングセンター、地域連携センターなど学生・大学の社会貢献活動を推進する部署、プログラムの運営、実践に関わる教職員／開設を検討している教職員／支援を担当されている大学教職員／開設や運営を支援している学外の間接支援組織の方

参加費

9/12(木) 基礎セミナー 4,400円
9/13(金) 実践セミナー 4,400円
(各日、JVCA会員は3,960円)

申込



<https://ws.formzu.net/dist/S51483631/>

締切：9/2(月) 17:00

9/12(木)9:30~12:30
基礎セミナー

学生がボランティア活動に参加する意義や、大学としてどのようにボランティア活動を支援すればいいのかなど、大学ボランティアセンターの運営に必要な基礎知識を学びます。また、学生ボランティアに対する地域の期待や学生を地域の施設や団体に送り出すにあたり留意しておきたいことなど、ボランティアコーディネーションのポイントについても理解を深めます。

ボラセン紹介では、ボランティアセンターの紹介動画を元に、実際のセンターの雰囲気や、掲示やレイアウトなどもお伝えします。

大学ボランティアセンターの新任担当のほか、今後、センターの設立を検討している大学、設立したばかりの大学の教職員の参加も歓迎します。

(ボラセン紹介)

- ・青山学院大学シビックエンゲージメントセンター
- ・新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部ボランティアセンター

講師

大谷大学准教授
赤澤 清孝さん

【講師プロフィール】

1974年兵庫県伊丹市生。阪神・淡路大震災をきっかけに翌年、学生有志できょうと学生ボランティアセンター(後のユースビジョン)を設立。学生のボランティア活動支援や団体のマネジメント支援に取り組む。2013年より大谷大学教員として学生らと地域連携活動を展開。著書に「学校ボランティアコーディネーション」(筒井書房、共著)等。



主催・問い合わせ

認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)
TEL 03-5225-1545 E-mail:jvca@jvca2001.org

9/13(金)13:30~17:00 実践セミナー

参加にあたって

- ・分科会は第1希望から第2希望までお聞きし、調整します
- ・同じ所属から複数の方が参加される場合でも、一人ずつお申込みください
- ・グループワークを行いますので、一人一台の機器(PC等)でご参加ください

<全体会>13:30~14:00

「あらためて”共に”活動する意義を考える」

ゲスト:川田 虎男さん

(埼玉県立大学社会福祉子ども学科准教授/聖学院大学ボランティア活動支援センターアドバイザー)

進行:赤澤 清孝さん(大谷大学社会学部コミュニティデザイン学科准教授)

<分科会>14:10~16:30 ※いずれか1つにご参加いただきます

【分科会1】学生間でメンバーシップを育み合うコーディネーターの関わりとは

【分科会2】ガクチカから考える、ボランティアコーディネーション

【分科会3】イベント化させない災害ボランティア活動 ~その次の一步をどうつなげるか~

<全体会>16:35~17:00

各分科会の共有 など

分科会1 学生間でメンバーシップを育み合うコーディネーターの関わりとは

新型コロナウイルスの影響で、多くの学生たちは中高時代に仲間と共に行動し活動する機会を奪われてきました。大学に入り、彼らは自ら望んで学生スタッフや学内のボランティア団体に所属しますが、仲間を信頼し合い、互いに支え合う経験が不足しているため、グループ活動が上手くいかないケースが増えてきました。本来、学生の活動は彼ら自身のものであり、コーディネーターは一步引いた立場で見守ることが望ましいかもしれませんが、今の状況ではコーディネーターの積極的な関与が求められています。この分科会では、学生リーダーがメンバーへの働きかけを工夫し、学生間で良好なメンバーシップを育むために、コーディネーターとして学生リーダーにどのように関わっていけるか、学生リーダーを育成するコーディネーターの好例を通じて考えたいと思います。

事例提供:高城 芳之さん(NPO法人アクションポート横浜 代表理事)
細野 瑞希さん(NPO法人アクションポート横浜 元学生スタッフ)

分科会2 ガクチカから考える、ボランティアコーディネーション

大学生の就職活動において、「学生時代に力を入れて取り組んだこと」、略して『ガクチカ』が問われています。あなたのセンターにもガクチカ目的の学生さん、来ていませんか?ガクチカ目的で来た学生さんにも、ボランティアの良さを理解してもらい、ボランティアの虜になってもらう。また、短期間のボランティアでも、魅力に気づいてもらう。そんな風に学生さんたちを導くには?ガクチカ目的で来た学生さんにはどんなプログラムなら響くでしょうか。またはどんなコーディネーションができるでしょうか。皆さんと一緒に考えたいと思います。

話題提供:滝井 元視さん(高崎商科大学短期大学部准教授)
事例提供:秋田 有加里さん(愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター コーディネーター)
水谷 耕平さん(青山学院大学シビックエンゲージメントセンター コーディネーター)

分科会3 イベント化させない災害ボランティア活動 ~その次の一步をどうつなげるか~

大規模な災害が発生すると、多くの大学ボラセンでは、学生を巻き込んだ様々な災害支援の活動を展開しています。学生たちも直接的、間接的に被災地の支援に関わるなかで、たくさんの学びややりがいを感じていますが、災害支援は「特別な体験」「非日常の体験」と捉えられがちで、経験が「その先の活動」につながりづらいという壁を感じています。そこでこの分科会では、災害支援活動を「非日常の体験」「イベント」で終わらせないボランティアコーディネーションについてみなさんと一緒に考えたいと思います。日ごろの想いや迷い、悩みを持ち寄り、アイデアを共有することで「次の一步」につながるヒントを見つけましょう。

話題提供:竹田 純子さん(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター コーディネーター)
山崎 智文さん(京都産業大学ボランティアセンター コーディネーター)

大学ボランティアセンター職員セミナー2024実行委員

赤澤清孝(大谷大学)、秋田有加里(愛知淑徳大学)、芦澤弘子(聖学院大学)、岡秀和(関西学院大学)、開澤裕美(中央大学)、上條直美(フェリス学院大学)、竹田純子(龍谷大学)、水谷耕平(青山学院大学)、山崎智文(京都産業大学)